

1999

千葉県建築文化賞

第6回表彰作品集

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 沼田 武

第6回千葉県建築文化賞に、多くの皆様から御応募をいただきありがとうございました。

千葉県では現在、「ちば新時代5か年計画」において、「文化的魅力のある都市の形成」を重要な政策課題の一つに掲げ、まちづくりにおける地域文化の創造や「千葉県福祉のまちづくり条例」に基づく社会福祉空間づくり、さらには地域環境の保全のための「環境にやさしい建築物」の整備などを推進しているところです。

千葉県建築文化賞はこうした施策の一環として、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設しました。そして、昨年度からは、人と環境に対して安全・安心で快適な性能を備えた建築物が、地域環境の保全にも寄与すると考えられることから、それまでの「景観に配慮した建築物」と「高齢者・障害者等に配慮した建築物」に「環境に配慮した建築物」を加え、3部門として表彰することといたしました。

第6回目となる今年度は101件の御応募をいただきましたが、選考委員による現地調査を含めた厳正な選考過程を経て、景観や高齢者・障害者並びに環境への配慮がなされた優れた建築物として建築文化賞6点、建築文化奨励賞3点を決定しました。

今後、県ではこれらの建築物が都市景観の形成や建築文化の向上の先導役となるような生活環境づくりを推進してまいります。

また、本県では、昨年、21世紀の県政運営の総合的指針となる長期ビジョン「みんなでひらく2025年のちば」を策定しました。

そして、このビジョンに基づく第1次の総合5か年計画を本年中に策定することとしています。

平成13年度から始まるこの計画では、「みんなで」「安心」して暮らせる「元気な」千葉県づくりをテーマに、重点的に取り組む課題とその対応策を明示し、21世紀の県民一人ひとりの幸せづくりや、地域の自立と発展を目指してまいりますので、県民の皆様の一層の御理解と御協力をお願いいたします。

終わりに、選考委員をはじめとする関係者や応募された方々、後援・協賛団体各位の御協力に深く感謝申し上げます。

平成12年3月

選考経過・総評

選考委員長 北原理雄

第6回建築文化賞に対して今年も多くの方々からご推薦をいただき、応募総数は101件(建築数78点)となった。数のうえでは昨年度を下回ったが、きびしい経済状況のもとで100件を超える応募があったことは、本賞が広く県内外に定着してきたことの一証左として心強い。

今回も、景観に配慮した建築物、高齢者・障害者等に配慮した建築物、環境に配慮した建築物の3部にわけて応募を行った。応募件数は、これまでどおり景観部門が57件と最も多かったが、高齢者・障害者部門も25件にのぼり、この面への配慮が一段と浸透してきたことがうかがわれた。環境部門は19件と昨年並みであった。

審査は、例年のように、まず応募図書に添付された説明書と写真によって18点の建築物を選び、それらを現地訪問して詳細に調査した。そのうえで現地調査の報告をもとに討議を行い、表彰者を選考した。

この結果、建築文化賞は各部門2点、奨励賞は各部門1点を表彰候補として確定した。

景観に配慮した建築物

今回も、自治体の建てた建築物の応募が多く、公共施設の質の向上を改めて印象づけられたが、従来この部門に多かった住宅が6件と激減し、物足りなさを感じさせた。次回以降、住宅の応募数が回復することを期待したい。

建築物の景観への貢献には視覚的な美しさに加えて、建築物を利用する人びとの活動が周辺との交流を生み、景観を生き生きとしたものにする側面がある。入賞した「印西市ふれあい文化館」と「アミュゼ柏」は、いずれも美しさと生活の両面に巧みに配慮している点が評価された。

「堀田邸」は、明治期の上流和風住宅の保存整備であり、新築建築物と同列に評価することは難しいが、庭園と一体となった文化的価値を認めて奨励賞とした。

なお、「知的障害者更生施設ガーデンセブン」は、

南に崖を背負う不利な敷地で質の高いデザインを実現している点が評価されたが、硬質でやや冷たい印象を与えること、また使い勝手に疑問が残ることから、今回は授賞を見送った。

高齢者・障害者等に配慮した建築物

福祉施設の応募が最も多いが、今回は住宅に見るべきものが多く、レベルアップが顕著であった。特に、身体の不自由な父親と若夫婦のために建てられた「指宿邸」は、高齢者の自立努力への配慮とともに、介護の中心となる妻の生活に対する優しい心配りが感じられた。

福祉施設では、「サニー秋桜」が、入居者の日常生活を重視した、手づくりのケアハウスとして評価された。傾斜屋根の建物は、緑の残る周辺の景観とも調和している。「清水観音の森駐車場便所」は、小さな町と設計事務所が限られた予算をやりくりして利用者に配慮した好感の持てる建築物である。

環境に配慮した建築物

「環境」という概念は多義的である。自然保護が環境への配慮であることは、誰もが認めるところだが、建築物は、多かれ少なかれ人工的に環境をつくり出す側面を持っている。

しかし、この部門の設置趣旨を考えると、技術的な解決だけでなく、環境共生型の工夫をこらした応募がもっと増えることを期待したい。

「君津市保健福祉センター」は、可変ルーバーをデザイン要素として巧みに使いこなし、複雑なプログラムを意欲的にまとめあげている。選には漏れたが、「東葛テクノプラザ」にも環境への配慮とデザイン性を両立させる斬新な工夫が見られた。「ガーデンプラザ新検見川」は、大規模なマンション開発の中で、住民参加型のピオトープづくりに取り組んでいる姿勢が共感呼んだ。「草深中央公園」は、トイレ屋上のソーラーパネルと併せて、防犯や保守管理への配慮が評価され、奨励賞となった。